

**連載コラム 院長室だより 病院長 桑村 智**

去る10月4・5日に第7回日本精神科医学会学術大会が長野市で開催されました。日本精神科病院協会が主催するこの大会は全国8ブロックの各地域順で開催され、昨年は中国・四国地区の広島大会でした。生憎参加することはできなかったのですが1400名超が参加する大変な盛会でありました。

広島大会閉会直後から北信越ブロックの会員が顔を合わせて大会のテーマやポスターのデザインなどを話し合いました。中でも長野県は開催地のため、大会の実行委員となって準備を進めてきました。1000人を超える規模の学会を運営することは大変な重圧でしたが、実行委員が大会を成功させるという意気込みの下に一致団結して大小様々な課題に取り組みました。私も演題のテーマを提案したりプログラム編成に加わったりと微力ながら精一杯協力しました。6月以降は毎月実行委員会があるため仕事を抜けなくてはならないこともあり、当院の職員の皆さんには大変ご迷惑をおかけしました。

果たして、長野大会はスライド・ポスター合わせて270以上の演題、1300人近い参加を集め、懇親会は希望者が会場に入りきれない程の盛会となりました。大会中、私は演題受付の役割を課せられており、発表を見る時間は限られていましたが精神科医療に携わる多職種が現場に根付いた視点で発表する演題は、いずれも興味深いものばかりでした。次に長野県で開催されるのは随分先になりますが、大会は毎年開催されています。同じ精神科医療に取り組んでいる仲間の発表に触れることはとても良い刺激になりますので参加することを是非お勧めします。

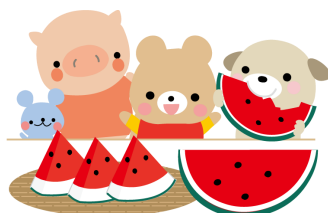
表紙写真

写真タイトル：「 サンふじ 」

撮影者： 樋口 孝

8月 病棟レク スイカ

平成30年8月1日（水）に各精神科病棟で一斉にスイカをメインとしたレクを行いました。毎年、暑い夏に全国的にも有名な下原のスイカをみんなで食べるレクを行っていましたが、同じ日に行うのは今年が初めてです。



22病棟では、職員によるスイカの早食いが競争が余興として行われ、患者さんは大きな声で応援したり笑ったりして楽しんでいました。

13病棟では新聞紙にスイカの写真を貼ってスイカ割りゲームを行い、23病棟ではスイカ柄のビーチボールを使ったスイカ割りを行いました。歩ける方も車椅子の方も参加し、みんなで声をかけ応援しながらスイカまで誘導して盛り上がりました。

余興やゲームのあとは、それぞれにスイカが配られ、多い人は5切6切と、こころゆくまでスイカを楽しんでいるようでした。

11病棟では、翌日の8月2日（木）に、患者さんとスタッフが一緒に盆踊りを踊ったり、花火大会の映像で花火鑑賞を行ったりしました。盆踊りは本番まで練習を重ね、当日もとても盛り上がりしていました。スイカも好評でおかわりする患者さんも多くいました。



9月 病棟レク 映画鑑賞



平成30年9月19日（水）に13病棟で映画鑑賞とあんみつを食べるレクが開催されました。

午前中に院内の喫茶室で、患者さんと職員が協力して、午後の映画鑑賞の後に食べるあんみつの下ごしらえをしました。今回作ったあんみつは、患者さんがみんなで同じおやつを食べられるように、食べやすさや軟らかさなど工夫して作りました。

午後、食堂で映画鑑賞を行い、今回は、ディズニー映画（アニメ）を鑑賞しました。上映作品は多様な患者さんに幅広く受け入れられるよう、近年の話題作などから選ばれています。患者さんは、「これぞ映画館」という雰囲気の中、集中して鑑賞を楽しんでいました。

鑑賞後は、午前中に下ごしらえをしておいたあんみつをみんなで試食しました。きれいに盛り付けられたあんみつは見た目も味もとても良く、好評でした。



11月 病院行事 おいも掘りとやきいも

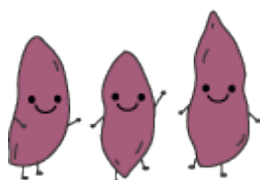
毎年、当院では農場でさつまいもを育てています。今年はそのおいもを使って、やきいもと茶きん絞りを作ってみんなで楽しむ病院行事を開催しました。



平成30年10月24日（水）の午前中に、患者さんと職員でおいもの収穫をしました。収穫したおいもは、OT（作業療法）の中で土を落としたり、干したりしてやきいも大会に向けて準備をしました。

11月7日（水）にやきいも大会を開催しました。お天気にも恵まれ、やきいも日和となりました。やきいものおいもは、患者さんと協力して新聞紙とアルミホイルで包み、農場で職員が準備した熾きの中に投入しじっくり火を通しました。その間、院内

の喫茶室では、茶きん絞りの調理が進められ、午前中の内にやきいもと茶きん絞りが完成しました。



やきいもと茶きん絞りは、午後のおやつ時間に患者さんに提供されました。患者さんからは、「甘い」「おいしい！」などの声があがり、秋の味覚を楽しむことができました。

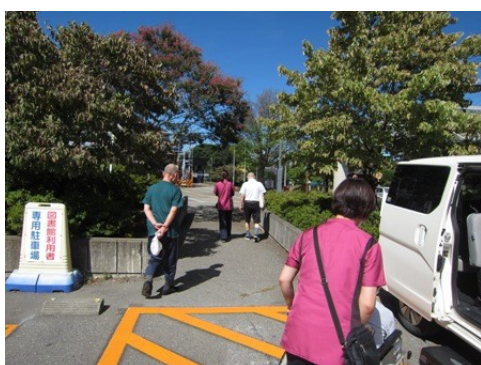


図書館への外出

昨年度から、OT（作業療法）のプログラムとして、月に2回、少人数のグループで近隣の波田図書館や三郷図書館へ出かけています。各病棟より数名の患者さんが参加してグループを構成し、病院の車でドライブを楽しみながら外出をしています。



このプログラムは、誰でも利用できる公共施設の図書館へ出かけることで、退院後の生活をイメージすることができたり、読書をする事で気分転換や趣味を持てたりと、退院への意欲向上にもつながっているプログラムです。



参加した患者さんの中には、図書館の利用者登録をして実際に本を借りる体験をしている患者さんもあり、次回の外出を楽しみにしていたり、「行けてよかった」などの感想があがっています。

今後も継続して、外出のプログラムを企画し行っていくことで、多くの患者さんにとって療養生活中的の良い刺激になればと感じています。



職場体験



平成30年8月28日・29日の2日間、三郷中学校の2年生5名が、職場体験で来院し業務を体験しました。

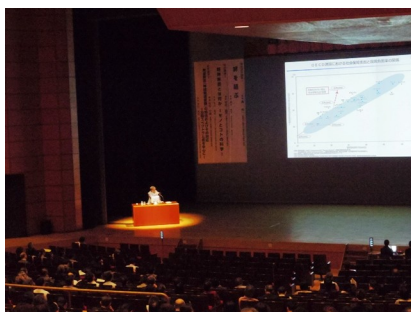
まず、病院で働いている職員の職種や資格についてや、日々の業務について各担当者から説明を受け、その後、病棟でフラワーアレンジメントのプログラムなどに参加して、実際に患者さんとも交流を深めました。患者さんは、中学生と一緒に過ごすことができとても楽しそうでした。



第7回日本精神科医学会学術大会

平成30年10月4日・5日の2日間、第7回日本精神科医学会学術大会が長野市のホクト文化ホール・ホテルメトロポリタン長野で開催されました。「今、必要とされる精神科医療～ニーズ・希望・信頼にこたえて～」をメインテーマに、多くの講演・シンポジウム・演題発表がなされました。

当院からは、6名の職員が参加し、桑村院長がポスター発表「強度行動障害をともしう広汎性発達障害の一例」、岩本医師がスライド発表「知的障害児入所施設への措置入所直後に発生した統合失調症患者の一例」を行いました。



病院の理念

慢性期の患者さま一人一人の病状・置かれている状況を個別的に考え人格を尊重し、全職員が職種を超えてチームを組んで一体的に治療目標が達成できるように最良のサービスを提供する。

病院の基本方針

1. 医療安全・サービスの質の向上
2. 地域への貢献
3. 職場の環境づくり
4. 地域連携
5. 経営の健全化

精神科療養病棟150床・老人性認知症患者療養病棟50床

患者さまの権利

患者さまは、人間として尊重され差別されことなく、公平で良質な医療を受ける権利があります。そのため私達は治療を始める際には、診療についての情報をご本人に説明しご理解いただいた上で患者さまのプライバシーを守り、意思を尊重し継続性のある医療を提供します。

〒399-8103
長野県安曇野市三郷小倉6086-2
TEL 0263-76-5500(代) FAX 0263-76-5501

社会医療法人 城西医療財団

ミサトピア小倉病院

編集後記

今年は、何かにつけて「平成」最後の年と言われ続け、来年の5月以降は、新しい年号になります。昭和から平成になり30年間の慣れ親しんだ「平成」が終わります。来年、年号が変わることで起こる作業が、どのくらい大変になるのか、不安になります。来年も、健康で災害も無く、過ごせる年であることを願うばかりです。

樋口 孝